

大内氏遺跡

つき

やま

あと

築山跡

山口市教育委員会

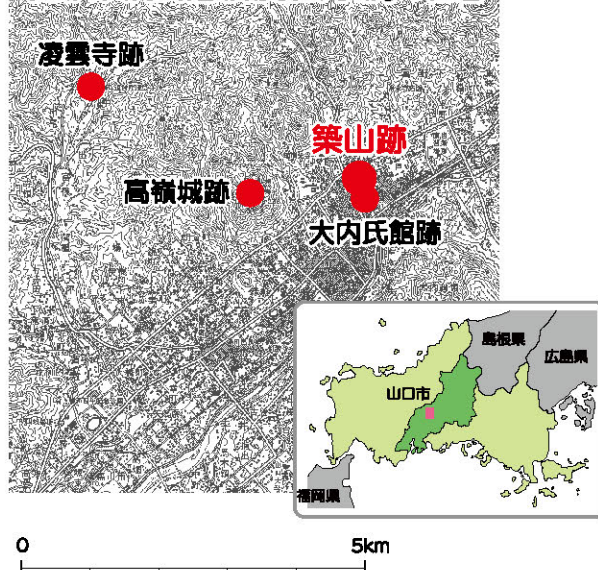
大内氏とその遺跡

大内氏は、室町・戦国時代の山口を本拠として、守護大名から戦国大名へと成長し、西日本で大きな影響力を誇りました。

大内氏ゆかりの館跡・築山跡・高嶺城跡・凌雲寺跡の4遺跡は、史跡「大内氏遺跡附凌雲寺跡」として、昭和34年(1959)に国の史跡に指定されました。

山口市には、国宝の瑠璃光寺五重塔をはじめ、大内氏ゆかりの歴史文化資源も数多く残されています。

史跡「大内氏遺跡附凌雲寺跡」の位置



大内氏館跡 | 大内氏の居所であるとともに政務を執った所。堀跡や庭園遺構・建物跡・門跡などが発掘された。



築山跡 | 守護職を譲った大内教弘が築いた館の跡とされる。築地(土塁)・堀跡・建物跡・石組などが確認されている。



高嶺城跡 | 毛利氏の来襲に備え、弘治2年(1556)に大内義長が築城を開始。毛利期の石垣や郭・建物礎石などが現地に残る。



凌雲寺跡 | 了庵桂悟を開山として大内義興が創建と伝える。総門跡などの石垣や建物跡が発掘されている。



上空からみた大内氏館跡と築山跡

令和元年 (2019) 撮影

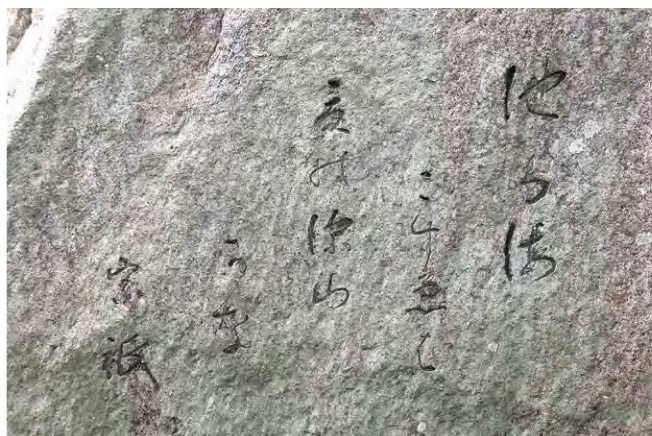
築山跡

築山跡は、大内教弘を「築山殿」とも称したことから、教弘が別邸として築いた館のあった地と伝えられてきました。また、教弘の跡を継いだ息子の政弘からの求めに応じて、連歌師の宗祇が詠んだ「池はうみ こずゑは夏の みやまかな」の句は、築山の豪華な庭園を詠んだとされています。

これまでの発掘調査の成果や文献史料の記述から、今からおよそ570年前(15世紀中頃)、大内教弘が守護職の役職を息子の政弘に譲った後の居館で、寛正6年(1465)に教弘が没した後は、築山大明神として神格化された教弘を祀る場になったと考えられています。

露出している唯一の遺構として、高さ3mの壮大な築地跡(土塁)が史跡指定地の西北部に残っており、往時を偲ぶことができます。

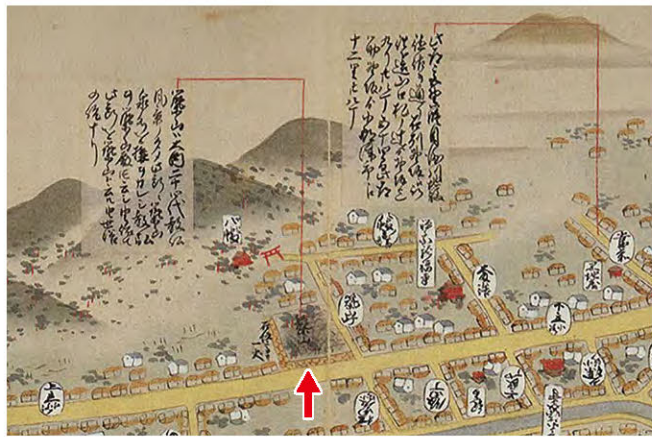
また、近世の絵図には、築地跡に石垣が描かれています。文献史料をみても、築地には石垣が築かれていたようです。幕末に毛利氏が拠点を萩から山口に移した際、築山跡の石垣を解体し、山口御屋形の石垣に転用したと伝えられています。



宗祇句碑 昭和28年(1953)に山口趣味の史談会が建立。築山神社と築地の間に設置されている。



築地跡 本来は石垣が築かれていたが、幕末に石材が持ち去られたと伝わる。土塁裾の石垣は、近代以降のもの。



江戸時代の築山跡 築山跡の築地に石垣が積まれる様子(矢印)がうかがえる。
『行程記』(山口県文書館所蔵)



山口御屋形の石垣 (山口市滝町) 幕末に萩から山口に移った毛利氏が築いた石垣。築山跡の築地石垣の石材を転用したと伝わる。

■ 築地をめぐる禁令

領国内を統治するために設けられた法令集「大内氏壁書」によれば、延徳2年に「於築山築地之上、祇園会其外自然之見物被加え制止訖云々（築山築地の上において、祇園会其の外自然の見物、制止を加えられ訖云々）」とあり、祇園祭などの際に築地に上って見物することを禁止していた様子を知ることができます。

上空から見た築山跡（南から）

■ 築山跡に瓦葺き建物があった？

築山跡の発掘調査では、土器や陶磁器とともに、室町時代に作られた瓦が数多く出土しています。なかでも、史跡中央部で行った第1次調査（昭和52・53年）や第4次調査（昭和62年）での出土が目立ち、瓦を葺いた建物がその周辺にあった可能性があります。また、格扶間と呼ばれる製品がみつまっていることから、宝形造の屋根をもつ建物があった可能性も指摘されています。

琉璃光寺
(旧香積寺)

洞春寺
(旧国清寺)

雲谷庵跡

山口市菜香亭

築地跡

築山神社

箏曲組歌
発祥の碑

八坂神社

丙跡

宗祇句碑

河村写真館

築山跡

築山跡史跡公園

東堀

掘立柱建物1

掘立柱建物2

出入口状遺構

南堀

築山跡の史跡指定範囲

築山小路

大内氏関連町並遺跡

館跡・築山跡連結ゾーン
(見学者用駐車場)

■ みえてきた築山跡の空間変化

発掘調査や文献史料からみると、築山館が築かれたのは1400年代(15世紀)中頃と考えられ、大内氏が滅びる1500年代(16世紀)中頃にかけて活発な活動がうかがえます。

史跡東南部で確認された遺構は、堀で敷地を囲っていた頃の前半期(東堀・南堀・掘立柱建物など)と、堀を埋め戻した後半期(出入口状遺構・方形石組など)に分けることができます。

文献史料によれば、築山に館を構えていた教弘が没した後、「築山大明神」として神格化された教弘を祀る場へと変化したとする説が有力です。築山跡での遺構変遷もまた、本地点の性格変化を物語るものと考えられます。

■ 築山跡の史跡整備

山口市では、築山跡の発掘調査を行い、地下に遺構を保存したうえで史跡整備を行っています。

整備面積 約 6,260 m²

整備内容

- ①指定地内東南部(築山跡史跡公園) 約 3,800 m²
(平成28～令和3年度 遺構の平面表示や説明板・あずまの設置)
- ②指定地内西北部 約 900 m²
(令和元年度 築地上に生える樹木の伐採など)
- ③館跡・築山跡連結ゾーン 約 1,560 m²
(令和2～4年度 便益施設・駐車場などの整備)

大内氏館跡の史跡指定範囲

大内氏館跡

築山跡の発掘調査

築山跡では、昭和52年(1977)から令和3年(2021)までに17回に及ぶ発掘調査を実施しています。その結果、築地跡(土塁)・堀跡・出入口状遺構・方形石組・土坑など、さまざまな遺構が発見されています。



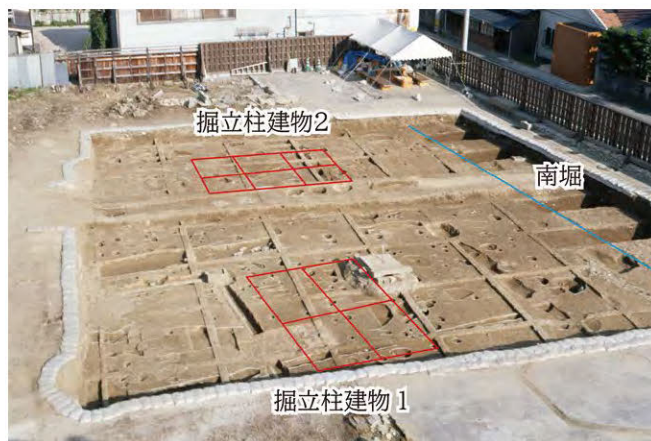
南堀 (平成18年) | 史跡指定地の南境界付近に掘られていた。



東堀 (平成22年) | 史跡指定地の東境界付近に掘られていた。



出入口状遺構 (平成26年) | 階段状の石組。南堀を埋め戻した後に構築される。



掘立柱建物 (平成18年) | 2棟の掘立柱建物が確認されている。



方形石組 (平成26年) | 野面石(自然石)で四壁を積み上げる。便所・水溜とする説もあるが、用途不明。



祠跡 (平成22年) | 築地の上面にあり、玉石敷と石塀からなる。築山大明神に関する近世の遺構とみられる。

近世以降の築山跡

大内氏が滅びた後の築山跡の地は、毛利氏によって寛文6年(1666)に氷上山山王社(大内氏の氏寺である興隆寺の鎮守社)に寄進されました。以後、江戸時代を通じて氷上山領となっていました。

幕末から明治にかけて、大内氏ゆかりの神社である八坂神社と築山神社(もとは宝現霊社と称したが、現在地に移った際に築山神社と改称)が現在地に移築されます。室町時代に大内氏が京から伝えた「祇園祭」や「鷺の舞」が同地で催されるようになり、料亭菜香亭や河村写真館も開業しました。

このうち菜香亭は、平成8年(1996)に料亭としての営業を終了し、現在は野田神社の西隣に移築され、山口市の文化交流施設「山口市菜香亭」として公開活用されています。

また、菜香亭のあった史跡指定地東南部を公有地化し、発掘調査を実施したうえで、その成果をもとに史跡公園として整備しました。



八坂神社 | 元治元年(1864)に現地へ移築。重要文化財の本殿は、永正17年(1520)に大内義興が再建したもの。



築山神社 | 江戸時代中期に建立。社殿は興隆寺の東照宮を明治初期に現地へ移築したもの。本殿・拝殿が市有形文化財。



鷺の舞 | 毎年7月20日に、八坂神社の社頭において奉納される。県無形民俗文化財。



河村写真館 | 明治20年(1887)頃に建造されたとみられる凝洋風建築。県有形文化財。